

リーディングDXスクール事業【実践事例】

海南市立亀川中学校

【取組内容】 伝統との調和をふまえた校務DXの実践

□背景と目的

一般的に、学校における校務DXは、業務の効率化と情報共有の迅速化を目指している。しかし、本校では、ICTに過度に依存することなく、伝統的な方法も大切にしながら進めることが重要であると考えた。以下に幾つかの視点を示す。

□職員朝礼の全員参加

職員朝礼は、全員が参加することとしている。直接顔を合わせてコミュニケーションを図ることで、情報の伝達・意思疎通がスムーズに行われるからである。

□ホワイトボードを活用した情報共有

連絡事項はクラウド等にアップするのではなく、ホワイトボードを使って共有している。そうすることで、全員が一目で確認でき、見落としを防ぐことができる。そして、職員が必要に応じて書き込んだりもする。また、一日の終わりにホワイトボードを撮影し、クラウド上にデータとして蓄積している。これが、次年度の学校運営に役立つと思われる。

□口頭での報告

生徒指導などの重要な内容は、必ず、職員朝礼で担当者が口頭で報告するようにしている。これにより、その時の状況やニュアンスが伝わりやすくなり、適切な対応が可能となる。

□不易流行の精神

校務DXを進めるにあたり、伝統的な方法と新しい技術のバランスを大切にした。効率化を図りつつも、直接的なコミュニケーションや従来の方法を尊重することで、より良い教育環境を目指している。

